

四半期報告書

(第33期第3四半期)

自 平成25年10月1日

至 平成25年12月31日

株式会社アーネストワン

東京都西東京市北原町三丁目2番22号

目 次

表 紙	頁
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	5
1 株式等の状況	5
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6
第4 経理の状況	7
1 四半期財務諸表	8
(1) 四半期貸借対照表	8
(2) 四半期損益計算書	9
第3 四半期累計期間	9
第3 四半期会計期間	10
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	11
2 その他	16
第二部 提出会社の保証会社等の情報	17

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第2項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第33期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	株式会社アーネストワン
【英訳名】	ARNEST ONE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松林 重行
【本店の所在の場所】	東京都西東京市北原町三丁目2番22号
【電話番号】	(042) 461-6288 (代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部長 岡田 慶太
【最寄りの連絡場所】	東京都西東京市北原町三丁目2番22号
【電話番号】	(042) 461-6288 (代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部長 岡田 慶太
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第32期 第3四半期 累計期間	第33期 第3四半期 累計期間	第32期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高（百万円） （第3四半期会計期間）	137,867 (45,890)	155,751 (56,088)	203,357
経常利益（百万円）	14,010	13,666	18,480
四半期（当期）純利益（百万円） （第3四半期会計期間）	8,812 (2,750)	8,457 (3,133)	11,715
持分法を適用した場合の投資利益 （百万円）	—	—	—
資本金（百万円）	4,269	4,269	4,269
発行済株式総数（千株）	65,688	65,687	65,688
純資産額（百万円）	66,842	74,195	69,745
総資産額（百万円）	92,593	118,517	100,421
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円） （第3四半期会計期間）	134.16 (41.87)	128.75 (47.71)	178.35
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
1株当たり配当額（円）	5.00	26.00	40.00
自己資本比率（%）	72.2	62.6	69.5
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△15,033	△24,023	2,006
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	172	△370	△10
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△2,796	10,142	△1,574
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	16,358	20,183	34,436

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第32期第3四半期累計期間、第32期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第33期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 四半期財務諸表等規則第4条の2第3項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。
6. 四半期財務諸表等規則第56条第4項により、四半期会計期間に係る四半期損益計算書を作成しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、当社は、平成25年11月1日付で一建設株式会社、株式会社飯田産業、株式会社東栄住宅、タクトホーム株式会社及びアイディホーム株式会社と共同株式移転の方式により6社の完全親会社として飯田グループホールディングス株式会社を設立し、その連結子会社となりました。

飯田グループホールディングス株式会社の状況は、以下のとおりであります。なお、飯田グループホールディングス株式会社は、有価証券届出書を提出しております。

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 [被所有]割合 (%)	関係内容
(親会社) 飯田グループホールディングス株式会社	東京都 西東京市	10,000	戸建分譲事業、マンション分譲事業、請負工事業及びこれらに関連する事業を行う子会社及びグループ会社の経営管理並びにこれらに附帯する業務	[100.00]	役員の兼任

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、新たな経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の各種経済政策により円安・株高が進行するなど、一部で景気回復の兆しがみられました。しかしながら、厳しい雇用・所得情勢の影響や、海外経済の減速による景気の下振れへの懸念は依然として残っており、先行き不透明な状況が続いております。

当不動産業界におきましては、新設住宅着工戸数は通年で増加傾向にあるものの、低価格物件を中心に他社との競争は依然として厳しい状況にあります。

このような情勢のなか、当社は、ひとりでも多くの人々に住宅を持ってもらいたいという信念のもと、徹底した原価管理と品質の向上に努め、良質な戸建分譲住宅及び分譲マンションを低価格で供給してまいりました。また、営業面におきましては、平成25年6月に熊谷営業所、成田営業所、札幌営業所、平成25年7月に山形営業所、香椎営業所、平成25年8月に水戸営業所、刈谷営業所、平成25年10月に郡山営業所を新設いたしました。

業績につきましては、戸建分譲事業において引渡数が増加したこと等により、売上高は前年同期を上回ったものの、売上原価の上昇により利益は前年同期を下回りました。なお、引渡数は戸建分譲事業が6,819棟（建売分譲6,419棟、土地売分譲400区画）、マンション分譲事業が203戸となっております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,557億51百万円（前年同期比13.0%増）となりました。営業利益は135億1百万円（同2.2%減）、経常利益は136億66百万円（同2.5%減）、四半期純利益は84億57百万円（同4.0%減）となりました。

また、当第3四半期会計期間の売上高は560億88百万円（前年同期比22.2%増）となりました。営業利益は50億22百万円（同16.2%増）、経常利益は50億53百万円（同15.0%増）、四半期純利益は31億33百万円（同13.9%増）となりました。

なお、当社の売上高は、主力事業である戸建分譲及びマンション分譲において、第4四半期会計期間に集中し、著しく増加する傾向にあります。このため、各四半期会計期間の業績に季節的変動があります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①戸建分譲事業

建売分譲におきましては、販売棟数が増加したこと等により、売上高は1,410億57百万円（前年同期比16.7%増）となりました。また、土地売分譲の売上高は68億51百万円（同121.8%増）、請負工事の売上高は13億37百万円（同3.8%増）となりました。結果として、戸建分譲事業全体の売上高は1,492億46百万円（同19.2%増）、税引前四半期純利益は128億71百万円（同6.0%増）となりました。

②マンション分譲事業

マンション分譲事業におきましては、販売単価は上昇したものの販売戸数が減少したこと等により、売上高は65億5百万円（前年同期比48.7%減）、税引前四半期純利益は6億50百万円（同64.8%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は前事業年度末に比べ142億52百万円減少し、201億83百万円となりました。当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は240億23百万円（前年同期比59.8%増）となりました。これは主に、税引前四半期純利益を136億63百万円獲得したものの、販売用不動産の仕入を積極的に行ったことにより、たな卸資産及び前渡金がそれぞれ305億1百万円、12億26百万円増加したこと及び法人税等の支出が59億93百万円であったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3億70百万円（前年同期は投資活動の結果得られた資金1億72百万円）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が1億63百万円及び投資有価証券の取得による支出が76百万円

であったことによるものであります。
(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は101億42百万円（前年同期は財務活動の結果使用した資金27億96百万円）となりました。これは主に、短期借入金の増加額及び長期借入金による収入がそれぞれ120億33百万円、26億3百万円あったものの、配当金の支出が39億85百万円あったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について、重要な変更はありません。

なお、会社の支配に関する基本方針は、次のとおりであります。

当社は、「良質な建物を、より早く、より低価格でお客様に提供する」、「時代を先取りした居住空間を作り出し、お客様に喜ばれる住宅建築を目指す」を経営方針としております。

家族が安心して暮らせるマイホームを手に入れることは、誰もが思う夢ですが、今までの日本の住宅は高額でなかなか手が届かないのが現実でありました。その「夢」を一人でも多くの人々に叶えてもらうことは、当社にとっての夢でもあります。だからこそ、当社は低価格で良質な住まいの提供にこだわりをもち続けています。

また、時代とともに変化するお客様のニーズを的確に捉え、常にお客様が求めている商品を開発し続けること、売れる商品を提供し続けることが企業の繁栄、存続につながることを考えております。

この経営方針を実践することが、当社の企業価値を高め、財務の健全性をもたらし、配当等の利益還元を可能にしていまいりました。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の経営方針を十分理解し、当社の企業価値及び株主の利益を中長期的に確保、向上させるものでなければならないと考えております。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(5) 従業員数

当第3四半期累計期間において、当社の従業員数は94名増加し、1,009名となりました。これは主に、戸建分譲事業拡大に伴う新規採用者の増加によるものであります。

なお、従業員数は就業人員数であります。

(6) 生産、受注及び販売活動の実績

当第3四半期累計期間において、戸建分譲事業の生産実績が前年同四半期と比較して著しく増加しました。

主な要因としましては、供給戸数を増加させていることにより、戸建分譲事業の建売分譲における生産実績が1,573億77百万円（前年同期比28.0%増）となったことによります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	240,000,000
計	240,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数（株） （平成25年12月31日）	提出日現在発行数（株） （平成26年2月14日）	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	65,687,297	65,687,297	—	単元株式数100株
計	65,687,297	65,687,297	—	—

(注) 当社株式は、東京証券取引所（市場第一部）に上場しておりましたが、平成25年6月27日に締結した「統合契約書」に基づき、平成25年10月29日をもって上場廃止となりました。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （千株）	発行済株式 総数残高 （千株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金増減 額（百万円）	資本準備金残 高（百万円）
平成25年10月31日	△0	65,687	—	4,269	—	3,167

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 65,687,200	656,872	—
単元未満株式	普通株式 97	—	—
発行済株式総数	65,687,297	—	—
総株主の議決権	—	656,872	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員 の 異動は、次のとおりであります。

役職 の 異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
代表取締役会長	—	代表取締役社長	—	西河 洋一	平成25年9月1日
代表取締役社長	—	常務取締役	営業本部長	松林 重行	平成25年9月1日

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期財務諸表等規則第4条の2第3項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。
また、四半期財務諸表等規則第56条第4項により、四半期会計期間に係る四半期損益計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	1.3%
売上高基準	1.4%
利益基準	2.2%
利益剰余金基準	0.8%

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,436	20,183
販売用不動産	13,042	27,924
仕掛販売用不動産	41,137	55,377
未成工事支出金	4,231	5,672
貯蔵品	28	30
前渡金	1,102	2,328
その他	1,744	2,172
流動資産合計	95,723	113,690
固定資産		
有形固定資産	3,233	3,236
無形固定資産	84	101
投資その他の資産	※2 1,379	※2 1,488
固定資産合計	4,697	4,827
資産合計	100,421	118,517
負債の部		
流動負債		
支払手形	5,200	6,363
工事未払金	12,649	11,540
短期借入金	※1 6,131	※1 18,164
1年内返済予定の長期借入金	885	1,407
未払法人税等	2,705	1,902
前受金	477	973
賞与引当金	543	180
役員賞与引当金	6	31
その他	1,530	1,591
流動負債合計	30,127	42,153
固定負債		
長期借入金	—	1,573
退職給付引当金	514	560
資産除去債務	4	4
その他	30	29
固定負債合計	548	2,167
負債合計	30,675	44,321
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,269	4,269
資本剰余金	3,167	3,167
利益剰余金	62,309	66,758
自己株式	△0	—
株主資本合計	69,745	74,195
純資産合計	69,745	74,195
負債純資産合計	100,421	118,517

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	137,867	155,751
売上原価	114,377	130,994
売上総利益	23,490	24,756
販売費及び一般管理費	9,681	11,255
営業利益	13,808	13,501
営業外収益		
受取賃貸料	113	141
その他	164	194
営業外収益合計	277	336
営業外費用		
支払利息	52	153
その他	23	17
営業外費用合計	75	170
経常利益	14,010	13,666
特別利益		
固定資産売却益	—	1
投資有価証券清算分配益	123	—
受取補償金	100	—
特別利益合計	223	1
特別損失		
固定資産除却損	0	4
特別損失合計	0	4
税引前四半期純利益	14,234	13,663
法人税等	5,422	5,206
四半期純利益	8,812	8,457

【第3四半期会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期会計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	45,890	56,088
売上原価	38,256	47,243
売上総利益	7,633	8,845
販売費及び一般管理費	3,310	3,822
営業利益	4,323	5,022
営業外収益		
受取賃貸料	39	49
その他	56	50
営業外収益合計	95	100
営業外費用		
支払利息	15	66
その他	9	3
営業外費用合計	24	69
経常利益	4,394	5,053
特別利益		
受取補償金	40	—
特別利益合計	40	—
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税引前四半期純利益	4,434	5,053
法人税等	1,684	1,919
四半期純利益	2,750	3,133

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	14,234	13,663
減価償却費	78	99
引当金の増減額 (△は減少)	△310	△297
受取利息及び受取配当金	△18	△16
支払利息	52	153
固定資産除売却損益 (△は益)	0	3
投資有価証券清算分配損益 (△は益)	△123	—
受取補償金	△100	—
売上債権の増減額 (△は増加)	6	115
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△19,660	△30,501
前渡金の増減額 (△は増加)	△476	△1,226
差入保証金の増減額 (△は増加)	13	△9
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△191	△107
仕入債務の増減額 (△は減少)	784	54
前受金の増減額 (△は減少)	75	496
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△183	55
未払又は未収消費税等の増減額	△207	△185
その他	△97	△72
小計	△6,125	△17,775
利息及び配当金の受取額	17	14
利息の支払額	△58	△269
補償金の受取額	100	—
法人税等の支払額	△8,966	△5,993
営業活動によるキャッシュ・フロー	△15,033	△24,023
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△59	△163
有形固定資産の売却による収入	—	1
投資有価証券の取得による支出	△117	△76
投資有価証券の清算分配による収入	323	—
その他	24	△132
投資活動によるキャッシュ・フロー	172	△370
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,064	12,033
長期借入れによる収入	885	2,603
長期借入金の返済による支出	—	△508
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△2,617	△3,985
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,796	10,142
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△17,657	△14,252
現金及び現金同等物の期首残高	34,015	34,436
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 16,358	※ 20,183

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(四半期貸借対照表関係)

※1 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
当座貸越極度額	6,000百万円	11,000百万円
借入実行残高	2,317	6,827
差引額	3,683	4,173

※2 資産の金額から直接控除されている貸倒引当金の金額

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
投資その他の資産	29百万円	23百万円

(四半期損益計算書関係)

前第3四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)及び

当第3四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社の売上高は、主力事業である戸建分譲及びマンション分譲において、第4四半期会計期間に集中し、著しく増加する傾向があります。このため、各四半期会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
現金及び預金勘定	16,358百万円	20,183百万円
現金及び現金同等物	16,358	20,183

(株主資本等関係)

I 前第3四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月28日 取締役会	普通株式	2,299	35.00	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金
平成24年10月30日 取締役会	普通株式	328	5.00	平成24年9月30日	平成24年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月31日 取締役会	普通株式	2,299	35.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年10月29日 取締役会	普通株式	1,445	22.00	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金
平成25年11月29日 取締役会	普通株式	262	4.00	平成25年10月31日	平成25年12月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

(金融商品関係)

前事業年度（平成25年3月31日）

科目	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	34,436	34,436	—
(2) 短期借入金	6,131	6,131	—

(注) 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金

現金及び預金については、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 短期借入金

短期借入金については、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

当第3四半期会計期間（平成25年12月31日）

現金及び預金及び短期借入金が、会社の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

科目	四半期貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	20,183	20,183	—
(2) 短期借入金	18,164	18,164	—

(注) 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金

現金及び預金については、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 短期借入金

短期借入金については、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	戸建分譲事業	マンション分譲事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	125,200	12,667	137,867
計	125,200	12,667	137,867
セグメント利益	12,138	1,846	13,984

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	13,984
受取賃貸料の調整額	95
投資有価証券清算分配益の調整額	123
その他の調整額	30
四半期損益計算書の税引前四半期純利益	14,234

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	戸建分譲事業	マンション分譲事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	149,246	6,505	155,751
計	149,246	6,505	155,751
セグメント利益	12,871	650	13,521

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	13,521
受取賃貸料の調整額	117
その他の調整額	24
四半期損益計算書の税引前四半期純利益	13,663

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	134円16銭	128円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	8,812	8,457
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	8,812	8,457
普通株式の期中平均株式数 (千株)	65,687	65,687

- (注) 1. 前第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

(1) 平成25年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………1,445百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………22円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……平成25年12月5日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

(2) 平成25年11月29日開催の取締役会において、臨時配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………262百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………4円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……平成25年12月26日

(注) 平成25年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

株式会社アーネストワン

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山口 光信 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 向出 勇治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アーネストワンの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第33期事業年度の第3四半期会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アーネストワンの平成25年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。